

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年四月度 入選句（投稿総数千二百六十三句・一般投句数八百十句）

特選

白球を追ひ春泥へまつしぐら

養老郡養老町 田中 紫香

春泥は雨や雪が降った後、気温が上がらないため乾かずにぬかるみになっているところ。ボールを捕らえるため汚れることなど気にしてられない。全身どろどろになってもかまわない。下五のまつしぐらが躍動感を出している。

春の街追ひ越してゆくハイヒール

神奈川県川崎市 佐藤 廣枝

春の本意は万物の命が目覚める季節である。語源は張る・晴るから来ているらしい。明るく活気付いて賑やかな街。颯爽と歩き追ひ越してゆく女性の姿が生き生きと表現されている。

空耳に言葉を返す四月馬鹿

大垣市 片山 洋紅

ヨーロッパ起源の風習で、四月一日は嘘をついても許されると言う。ただしユーモアの無い他人を貶めるだけの嘘はよくない。
この季語との取合せは、いかにも間の抜けたような感じや自嘲の句がよく合う。空耳に返事をしたと言うとぼけた様子がびったりである。

秀逸

春霞夕日大きく膨らみて

大垣市 日比野 友子

裏口にどすんと寒の戻りかな

大垣市 村田 通夫

タクシーのシートに沈む花疲れ

静岡県藤枝市 増田 弥生

音たてて甕の水飲む恋の猫

大垣市 鶴田 信子

黄水仙避けて止まりぬ送迎車

大垣市 小林 千代

校門でママの手ぎゅつと初桜

大垣市 石田 仁生

雲雀野に時を求めしブルースト

愛知県豊橋市 五藤 青海人

畑打つやとくに伊吹を仰ぎ見て

不破郡垂井町 久保田 紘義

旅支度留守への支度花菜漬

神奈川県川崎市 佐藤 廣枝

古希祝う家族のような福寿草

大垣市 高橋 柳邦

入選

一斉に雛のささやく薄明り
彼岸入り千体地藏行儀良く
卒業の道胸張ってまた一歩
リラ冷えや手斧削りの太柱
寝て待てど果報まだこぬ四月馬鹿
裾野迄見ゆる御嶽風光る
城仰ぐ川は豊かに養花天
声援を受けてゴールや梅日和
春灯もれ赤子と母の八畳間
新調のコート見せ合う春の朝

養老郡養老町	田中	秀子
大垣市	佐竹	余史美
海津市	横井	美圭
山梨県北杜市	福田	すみ江
東京都世田谷区	関戸	信治
大垣市	森川	きよ子
大垣市	中山	あや子
大垣市	安田	むつこ
大垣市	平野	ヒサエ
大垣市	小林	千代

入選

旅立ちの背なをおしけり春の風
乙女子の黒髪ゆらす花の風
花映える川面ゆらしてたらい舟
船頭の説明無用花吹雪
老夫婦正座して聞く初音かな
ゆつくりとでもしつかりと桜咲く
一字づつ春を呼び寄す写経かな
落款の逆さに押され四月馬鹿
春泥やこの道を行くほかはなし
声あげて白き椿の落ちにけり

大垣市	井藤	英美
愛知県知立市	太田	節
大垣市	中井	信義
大垣市	福田	絹子
大垣市	高尾	田鶴子
大垣市	谷	彩虹
不破郡垂井町	竹嶋	富美子
大垣市	臼井	秀子
岐阜市	堀江	美州
北海道旭川市	葛西	ともこ

選者吟

あふれ来る光の粒や花ミモザ

武直